

神ノ川ヒュッテ25年間の活動に感謝

多くのボランティアの活動に支えていただいています

平成6年より営業を始めた神ノ川ヒュッテは今年で25年目となります。今年の日開きは4月14日に折花神社境内にて山男たちにより行われました。神ノ川ヒュッテ友の会会員・藤野山岳会会員17名が参加し、辺りの桜が美しく咲き誇るなか、午前8時から上野原市の神主鈴木宮司により祝詞奏上が行われ、今年の日開きの安全が祈禱されました。日開き終了後は林道の清掃を行い、神ノ川ヒュッテへ場所を移動して懇親会を開催し、正午過ぎにお開きになりました。折花神社は神奈川県山岳連盟初代会長の尾関広氏により昭和41年に再建され、現在は杉本憲昭氏により運営されています。神ノ川ヒュッテは今日まで、多くの山男たちにより引き継がれ存続してきました。現在は北丹沢山岳センターの加藤博恵氏・岸百合子氏・市川博文氏、原孝氏らの協力を頂き営まれています。

日開きにご参加いただいた方々（敬称略）

鈴木晃（神主）・山口勝彦・原孝・神保信一郎・後藤正二郎・小林利雄・加藤博恵・遠藤勝巳・真屋幸雄・杉本憲昭・井上力・和泉悟・市川博文・佐藤忠夫・岸百合子・横山美春・山崎昌子



北丹沢神ノ川ヒュッテ周辺の登山道最新情報

神ノ川ヒュッテ先の立石建設の向かい広場から標高900mの鐘撞山へは2kmの道のりで多くのハイカーに親しまれている人気のコースです。登山口ではきれいな沢水が流れ、上を目指して進むと採石場を眼下に眺められ山頂より西側に下ると神ノ川ヒュッテへ下山できるコースもあります。



神ノ川ヒュッテより犬越路に至る2.1kmの1時間半コース・日帰りのハイキングコースで人気です。登山口より神ノ川ヒュッテ上部では現在は日陰沢の支流から大規模土砂災害工事が行われています。更に沢沿いは森林伐採が行われています。登山道は日陰沢沿いに付けられています、度重なる災害により危険ですので気をつけて通行してください。



神ノ川園地より神ノ川の本流の吊橋を渡ると、風巻ノ頭に至る登山道は、胸突き八丁の急激な上りとなる。ここは袖平山から姫次への辛く厳しいコースである。しかし、この約8.2km、3~4時間の道のりは、苦しさを忘れさせる素晴らしい展望を備えた、魅力あるコースでもある。



落雷に注意！

大木の下への避難は危険 ザックやストックも要注意

登山中落雷で死亡
鍋割山、千葉の男性
県は5日、秦野市、松田町、山北町にまたがる丹沢山地の鍋割山（標高1272.5m）で4日午後、登山中の男性に雷が落ち、死亡したと発表した。松田町によると、死亡したのは千葉市の男性会社員（45）。男性は4日午後1時25分ごろ、山頂から南西に約640mの地点を、山頂に向かって友人の男性（45）とともに歩いていた。雨が降り出したため木の根元に移動したところ、雷に撃たれた。友人は少し離れた場所におり、けがはなかった。当時、周囲には雷注意報が出ていたという。

↑5/6 神奈川新聞より転載

天候不順が続く近年ですが、この連休では落雷による死亡事件が発生しました。山に登った際は天候や気温の急変等を念頭に置いて、状況を確認し安全に退避するよう是非気をつけてください。



悲劇の姫を祀る折花宮 昭和40(1965)年1月

奈川山岳連盟会長・尾関廣さん（故人）が再建した。その後、地元の人たちの手で改修されている。現在は北丹沢山岳センターの杉本憲昭さんが折花神社講中をつくられている。神ノ川流域は谷が深く、東丹沢に比べ登山者の数は少ない。戦国時代のお姫さまの悲劇に思いをはせながら、静かに山を歩くのもいいものだ。

折花宮

武田氏の姫の悲話を伝える

丹沢の津久井側では、折花姫の悲話が語り継がれている。
「津久井郡勢誌（昭和二十八年）」には、次のように紹介されている。
「道志川最大の支流は神ノ川である。この川には処々に清流のよどむ広い河原があり、そこに野鹿や猪の群れ遊ぶ姿をみることもあり、ここふる野趣にとんでる。周囲は前人未踏の原生林に覆われ、野鳥が舞い奇岩が置かれ絶景である。この神ノ川渓谷には、「ババア宮」「アマミダ申し」「カアイおね」「ジジイ宮」「折花宮」等と呼ばれるところがある。土地人による伝説が「入哀愁をそそっている」
「ババア宮」などの地名は津久井町青根地域周辺にあり、折花姫にまつわるもの。悲話の要旨は、次のようなものである。

今から四百年以上前、甲斐武田氏の滅亡時のこと。武田一族側近の小山田八左衛門は身内を連れて丹沢山中に逃げ込もうとしたが、西野川付近で討ち死に。折花姫は翁と姥とともに神ノ川方面にさらに逃げたが、姥は昔久和付近で殺され、翁も討ち死にした。一人残った姫は、短刀で木を突き自害した。
姥が殺された所にかつて「ババア宮」が祀られていたという。姥に手向けの念仏を唱えながら姫が登った山道が「アマミダ申し」。ただ一人逃げる姫の後ろ姿に手を合わせ翁が「おかわいそうに」とつぶやいた尾根が「カアイおね」と呼ばれ、翁の「ジジイ宮」は現在、神ノ川林道左



現在の折花宮